

1. 活動報告（事務局 記）

- 6月6日（土）フジときららネットのこどもエコクラブ2009のビオトープでの観察会が行われました。子供19名とスタッフ6名に田村・北村・西原会員が案内し、いろいろな生き物に触れてビオトープを楽しんでもらいました。
- 6月7日（日）エコアップを主体に作業をし、湿地帯及び草原内、川の黄菖蒲を大々的に除去しました。田植えの準備として田んぼ周辺の草刈や木の剪定も実施しました。参加者は15名でした。
- 6月13日（土）10時～15時 福川こどもクラブ（大野さん御主人主謀）
「ビオトープ探険」と銘打って、子ども27人、スタッフ15人（うち、大学生8人、高校生1人、中学生2人）、その他4人（父母、未就学児2人）
（大野靖子会員指導者含む）と当会指導者、西原、北村と案内役原田で対応しました。
- 6月14日（日）宇部ネイチャーゲームの会 松田会長ほか40名の方がビオトープにて活動をされました。
- 6月17日（水）田植え準備 原田宗会員による代掻き 地均し仕上げ 吉富匡、原田マ
- 6月19日（金）山口県教育庁からと県立高校農業学科担当教師9名の方の勉強会がありました。ふれあいセンターで今井会長、原田副会長によるビオトープ創設時経緯、三大コンセプト、各受賞説明、活動状況、問題点等々講義の後現地見学しながら説明を行いました。今後の学校教育、環境学習や学校ビオトープに知識を活用される事を祈ります。
- 6月20日（土）午前、本日最大のイベントである田植え行事を完工しました。
里山自然観察隊と保護者計27名、二俣瀬子ども会 挽地会長ほか計13名、二俣瀬小学校校長先生、教頭先生、一般参加4名、当会会員27名 総計73名
正味1時間半で済み引き続いて「膝癒し（泥落とし）」を会員女性陣で作った団子汁を頂き楽しく終了しました。
- 6月20日（土）午後、平成21年度第二回「里山自然観察隊」初夏の昆虫講座で、講義の後ビオトープ周辺で昆虫採集し勉強をしました。梅雨といっても天気がよく夏の日差しの中でたくさんの昆虫を確認できました。中でも珍しくハッチョウトンボを採取し、みんなで確認後元の場所に逃がしてやりました。参加者は 隊員16名、保護者会員13名、会員指導者11名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者
二俣瀬小学校2年生のビオトープでの体験学習 6月24日の予定との事です。
- ◎ 行事
 - 7月5日（日）都合により4日（土）とします。 エコアップ、須賀河内川ヨシ刈り
 - 7月6日（月）中国電力さんボランティア活動による刈ったヨシの揚げ川さらえ（雨天翌日）
 - 7月18日（土）維持活動：エコアップ、草刈り

3. 来訪者の声（ 東屋のノートより一部抜粋 ）

—6月2日（火）—5月27日に古希を迎えた老人

私はダム上流の小野に生まれたものです。昭和30年～33年この二侯瀬を土曜日に自転車で帰り日曜日には市内に向け（下宿）通っていました。さびれ荒廃していく生まれ故郷を時折目にする、さびしいものです。当地有志の方による造成に敬意を表します。ありがとうございました。

—6月6日（土）—今日は雨模様傘を杖に散歩に来ました。田んぼの中には「マムシ」と書いてありますので近寄れません。里山の散歩道としていいですね。体も疲れ草刈も大変ですが来客者のために頑張ってお草を刈ってください。私は今は宇部にいますが小野の一住人。苦労はよく分かります。長く続くよう頑張ってください。ご苦労様です。

4. 会員の声 自然に想う（内藤武顕記）

車地に疎開してきたのは小学校4年の夏だった。本家の農作業を一生懸命に手伝いました。お米の一粒が神様に見えました。畦に足を投げ出し、口にしたムスビの味は素晴らしくおいしかった事を今でも覚えている。

畦に立ってみると、植田は一面美しい薄みどりに染まっている。最近はいつ田植えが始まり、いつ終わったのか分からなくなった。“田植機の補植役にて甘んじぬ”先日暑さの中、広い田んぼに数日かけて補植する女性の姿を見かけた。稲作への深い思いを垣間見ることになりました。

私は昨年3月にビオトープの会員になりました。同時に俳句教室にも入会しました。長い間田舎に住みながら自然に親しむ心を捨てていたようです。理由のもうひとつは脳の若返りです。

5月俳句会のことです。「河骨（こうほね）ってどう読むのですか？」と尋ねると間髪を入れず、俳句の先生が「内藤さんビオトープの会員でしょ・・・一番奥の池に黄色の花が沢山咲いているでしょ！」カワセミについても聞いてみる「どの辺に止まっちゃった」「合鴨がいた池の杭によく止まっていますよ」「もう数回観察していますよ」

私の作った句は集中砲火をあび原形をとどめない句に変わる。けれども毒舌が楽しい。俳句は自然と同じ不思議な世界です。

河骨の話に戻りますが、7日の活動日エコアップ後、私を原田事務局長が河骨の池に連れて行く。黄色い花が一本咲いていました。百聞は一見にしかず見つめれば見つめるほど深いものを感じました。東屋で北村会員の説明があり、胸にストーンと落ちた言葉がありました。「太古より・・・」でした。帰宅後あらためて生物百科広辞林等々で調べてみました。

ひとつの植物のことにこんなにムキになれて良かったと思った。ちょっと脱線しますが、広辞林の補足欄に河骨の根茎は漢方薬で川骨（せんこつ）と呼び、強壯剤として貴重ですと記してあった。納得できました。さっそく買います。最後に私の句です。

“訪ふ人は 筍山か 音たどる” 原田事務局長宅を訪ねたときの句です。これは特選句となりました。

5. 会よりの連絡事項（事務局より）

新入会員のお知らせ

○土井敬予（どい たかよ）さん 宇部環境技術センター勤務 tel 32-0082（勤務先）
住所 759-0207 宇部市大字際波 2752-1
連絡 携帯電話あり 他 メールリストに登録済み

○松村悠美（まつむら ゆみ）さん
住所 755-0091 宇部市大字上宇部 193-13
連絡 携帯電話あり 他 メールリストに登録済み

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（管 哲郎 記）

（13）コヤマトンボ（エゾトンボ科） *Macromia amphigena amphigena* Selys

幼虫は平地では河川の中流域や林縁の大きめのため池に、丘陵地や山間部でも溪流や大きいため池などに生息し、4月半ば頃から羽化を始め、5月～6月頃盛期を迎え、初秋には見られなくなりますが、一般にはあまり目にするのことがないトンボかもしれません。

若い成虫は溪流沿いの林間の空き地や川の上、池まわりの空き地を低空で旋回飛行し、成熟した成虫は川面を飛行したり、夕暮れになると黄昏飛行や人のあまり通らない農道の低空をゆっくりと左右に移動しながらエサを探しているような飛行を行います。

羽化は水辺のすぐ近くだったり、数m離れた木の幹や枝の、これも数mほど登った場所で行なわれたり、橋の下のコンクリートの壁を数mもよじ登り羽化することもあります。

国内では本州、四国、九州に普通にいますが、北海道ではエゾコヤマトンボ、チョウセンコヤマトンボという亜種になります。



コヤマトンボ メス（♀）羽化の状況



若いコヤマトンボのオス（♂）



コヤマトンボ オス（♂）の成虫



メス（♀）の成虫

7. 里山自然観察隊の活動報告 6月20日 夏の観察（主に昆虫）

隊員 16名、保護者 13名、会員 11名

今年度第2回目となる観察隊の活動は、植物班の担当が参加できないため、昆虫中心の採集・観察を行いました。進行・指導には、隊長の西原さんを始め、スタッフ7名（大野・潮村・関根・中本・藤井・前田・松本会員）のサポートを得て、昆虫班の3名（管・藤井・松原会員）が当たりました。

現地での採集・観察に先立ち、まず市民センター講堂で、西原隊長から「生態系ピラミッド」についての話がありました。イラストはもちろん、紙コップをツールに使った分かりやすいレクチュアでした。続いて、管さんにはトンボを採るときの、藤井さんにはチョウを採るときのネットの振り方について、デモをしてもらいました。これまでの観察隊活動の結果、ビオトープとその周辺(*)では55種のトンボが見付かっていることなど、配布資料(**)にもとづいて観察のヒントや注意事項などを話した後、タイムスケジュールを確認して、午後2時ビオトープに向かって市民センターを出発しました。

アゲハ類、タテハ類が全く見られなかったのは想定内とはいえ、寂しい限りでした。でも、ウチワヤンマとハッチョウトンボが初記録されたことがトピックです。ハッチョウトンボは今夏、西原隊長が写真撮影に成功されていました。管さんが配布資料の中で期待されていたフレーズが現実となりました。うちのビオトープはトンボ相がとっても豊かだということ、隊員たちは実感してくれたかな？

3時半にビオトープに戻って、捕まえた虫たちの恒例の“同定会”を行なったあと、虫たちをリリースしました。市民センターに帰り、4時から講堂でこれまた恒例の“虫合わせ”を行ないました。13種捕まえた隊員が最高でした。そして隊員全員にキャンデーを賞品として手渡しました。

夏の球技大会を控えているせいか参加隊員は少なかったのですが、会員ともども梅雨の晴れ間の楽しいひとときを過ごし、午後4時30分に散会しました。

確認（採集または確認）できた昆虫たちは次のとおりです。

【トンボ】（20種）キイトトンボ、ベニイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ、オオイトトンボ、モノサシトンボ、グンバイトンボ、ヤマサナエ、コオニヤンマ、ウチワヤンマ（初記録）、オニヤンマ、ヤブヤンマ、ギンヤンマ、クロスジギンヤンマ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、チョウトンボ、ハッチョウトンボ（初記録）

【チョウ】（9種）モンシロチョウ、キチョウ、ヒカゲチョウ、ヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ

【バッタ他】（12種）ショウリョウバッタ（幼虫）、トノサマバッタ、ツチイナゴ、キリギリス（幼虫）、キリギリスのなかま（幼虫）、カマキリのなかま（幼虫）、コオロギのなかま（幼虫）、ナナホシテントウ、マメコガネ、セマダラコガネ、ノコギリクワガタ、クマバチ

(*) 周辺：ビオトープから昭和山入口までの道沿い

(**) 配布資料：宇部市「里山ビオトープ二俣瀬」のトンボについて（管さん作成）

8. 編集後記

今年は春から新型インフルエンザが広がり、WHOではフェーズ6を宣言しました。とりあえず、これまでの通常のインフルエンザと特に変わるところはないようですので、これまで言われてきた、インフルエンザの予防方法がそのまま使えます。

これまでのインフルエンザは、何となく慣れがあったことから、今ひとつ十分な感染予防策がとられていなかった気がします。罹っても、なかなか仕事を休まないというのがいい例でしょう。

この秋には、第2波が来るとも言われています。そのとき、強毒性になっているかどうかは、今はわかりません。そこで、まず、通常の季節型インフルエンザのワクチンを打たれることをおすすめします。このことによって、季節型インフルエンザに対しては、かかりにくくなります。ということは、ひどいインフルエンザに罹った場合、新型の可能性（あくまで可能性です）があるということになります。もし、罹ったと思われる場合は、すぐに診察を受け、48時間以内にタミフルやリレンザを服用され、できるだけ外出しないことが一番です。予防策としては、外出されたときは、帰宅時の手洗いとうがいをするのが大切とされています。また、おかしいなと思われたときは、マスクをすることで、他の人へうつさないように心がけることも必要とされています。

結局、普通のインフルエンザでとる方法と全く一緒ですね。皆さん気をつけましょう。

ところで、先日の観察隊ではハッチョウトンボが見つかりましたね、1円玉が直径ほどの大きさのトンボが近くにいるなんて、自然ってすごいですね。

（ 藤井 義晴 記 ）

メーリングリストの連絡網については、一瞬のうちまたは短時間にて情報を伝達できる又確認も可能である。電話連絡網については活動日参加された会員のみ確認できる。

かって10年前には考えられなかったことが可能となっている。画像それも動く画像が即伝達できるようになってきている。里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 全会員がこのメーリングリストの会員であればさらに連絡網の充実が図られ活動も完璧なものとなる。いつになるだろうか？

（ 原田 満洲夫 記 ）